

【戸塚区】令和7年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

| | |
|--------------|---|
| 開催日時 | 令和7年9月5日 14時30分～16時00分 |
| 場 所 | 戸塚区総合庁舎9階特別会議室 |
| 出席者 | <p>【座長】伏見幸枝議員</p> <p>【議員：4名】山浦英太議員、中島光徳議員 坂本勝司議員、大和田あきお議員</p> <p>【戸塚区：30名】近藤武区長、緑川斎福祉保健センター長、 安藤敦久福祉保健センター担当部長、白井一彦土木事務所長、 佐久間栄吉戸塚消防署長（災害対策担当部長） ほか関係職員</p> |
| 議 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区決算状況 ・令和7年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区執行状況 ・令和8年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区予算編成の考え方 |
| 発 言 の 要 旨 | <p>大和田議員：上矢部地区センターで3箇所雨漏りしていると利用者から心配の声が届いているが、状況を教えてほしい。</p> <p>また、戸塚地区センターと踊場地区センターの自習室のコンセントが使えないという利用者からの声もあるが改善できないか。</p> <p>竹内地域振興課長：上矢部地区センターの雨漏りについては、7月に建築局に技術相談をし、8月に専門業者が現地調査をしている。現在は見積を依頼しているが、結果が分かり次第お伝えしたい。</p> <p>コンセントの件は、所管している指定管理者と理由等を確認しながら対応していく。</p> <p>大和田議員：上矢部地区センターは地域防災拠点等、災害時の役割を持っているのか。</p> <p>近藤区長：上矢部地区センターは地域防災拠点ではないが、戸塚区防災計画では補充的避難所という役割になっている。そういう中で雨漏り等が</p> |

ないよう建築局と相談をしながら進めていきたい。

大和田議員：私も戸塚地区センターと踊場地区センターに現地確認に行つた方がいいか。

竹内地域振興課長：我々で確認し結果については後日お伝えする。

山浦議員：これから多死社会を迎えるにあたって、東部方面斎場の整備が計画されているものの、現状では火葬まで遺体を保管する施設が少なく、民間事業者が横浜市内に安置所を設置している状況がある。他都市では安置所の設置に関して条例や要綱などの規定があるが横浜市にはない。健康福祉局や副市長から検討すると議会で答弁はあったが、区としての見解はどうか。

山内区政推進課長：遺体保管施設の建設については、過去に住民から心配の声があがったことは承知している。区としては、事業者側が地域との関わりをもって住民に説明をしながら計画を進めてほしいという思いがある。建築局や健康福祉局に状況を確認したが、現状では事業者に対して制限や対応を求める法的な規制はない。その中で区としては、地域から相談があった際は状況などをできるだけ丁寧に聞き取り、法的な規制がない中でどのような対応が取れるのか、建築局や健康福祉局とも情報共有や連携をしながら対応していきたい。

山浦議員：副市長からは、条例や要綱の制定には至らないが極めて重要なことだと認識し、慎重に取り扱いたいと答弁があった。戸塚区としても、区民や民間業者の方から相談があった時はそれを踏まえて対応いただきたい。

次に、区役所駐車場について、他区では 24 時間入出庫できるようにすることを前向きに検討していると聞いているが、戸塚区でも可能か。

石和田総務課長：戸塚区は庁舎の管理を P F I 事業で行っており、セキュリティの観点から 22 時 30 分から翌朝 7 時の間は閉鎖している。今後の状況によっては検討の余地があるかと思うが、市民局と調整させていただきたい。

山浦議員：今後、市会で市民局に質問する予定だが、戸塚区でも24時間出入庫の需要があると思うので前向きに検討していただきたい。

次に、県営団地の建替について、神奈川県と連携していくと副市長から答弁があった。県では少しづつ計画に盛り込もうとしている。一方で、戸塚区には8つの県営団地があり、その約半数が築50年以上経っているにも関わらず、建替の予定がない。区民の方から建替に関する相談等はあるか。

山内区政推進課長：県営団地にお住まいの方から建替に関する直接的な相談は受けていない。区民の方からそのような相談があれば、然るべきところに繋ぎ、とるべき対応をしていきたい。

山浦議員：市会で副市長が県営団地の居住者も大切な市民だと明確に答弁していることも踏まえて、区民の方からそのような相談があれば、県会議員や市会議員へ情報を共有していただきたい。

中島議員：戸塚区の防災を進めるうえで、マンション防災は非常に重要と考えている。取組を進めるべきマンションと自治会や管理組合がなく難しいマンションを区別しながら、それぞれの目標を定めてはどうか。例えば、区で実施しているマンション防災アドバイザー派遣を受けたマンションをステップ1、防災に関する講座を受講したマンションをステップ2、そして最終的には建築局の「よこはま防災力向上マンション認定制度」の指定を受けるなど、取組ごとのステップアップの行程が見える化できれば、地域でのマンション防災の進捗が可視化されると思う。そのうえで目標を定めながら進めてほしい。

また、発災時にマンション居住者は基本的に在宅避難ということを啓発しているが、地域防災拠点とマンションが連携した訓練の件数と内容について、今後は報告してほしい。

石和田総務課長：現在作成中のマンション防災ガイドブックについては、初級・中級・上級とレベルに合わせて進められるような構成を考えている。それぞれのマンションの段階の見える化については今後検討していきたい。

また、地域防災拠点との連携についても、実績等を踏まえて改めて報告させていただきたい。

中島議員：交通課題箇所改善検討事業について、6月に調査、8月に戸塚警察署と協議を行って、これから具体的な対策が実施されると思うが、現状を教えてほしい。

山内区政推進課長：6月の調査では、7時から21時まで14時間の方向別交通量及び吉田大橋交差点を先頭にアンダーパス方面への滞留長の確認を行った。地域の方から要望をいたしましたとおり、朝の時間帯に滞留長が伸びることも確認できたため、これらのデータを8月に戸塚警察署へ提供している。8月20日時点で、戸塚警察署から県警本部へ協議として挙げたと報告を受けた。現在はその結果を待っているところであり、進捗があれば報告したい。

中島議員：最終的には効果測定まで行い、報告していただきたい。今回のように新たに現状調査をし、その結果で協議に入っていくやり方はこれまでの区づくり推進費自主企画事業としてはなかったもので、調査費を予算化し、具体的なデータを取ることが出来たのは大きな成果と考える。地域課題の解決は非常に重要な取組の一つであるため、これを成功事例とし、来年度以降も課題箇所を明確にしながら優先順位を決めて取り組んでいただきたい。

次に、東戸塚駅東口前の混雑緩和に向けて、私自身も交通量調査を行い、ある程度の数値化を図ることができているが、タクシーレーンと一般車両レーンの最適化に向けた取組と今後の展開について教えてほしい。

山内区政推進課長：7月上旬の状況を捉えたデータを分析し、一般車乗降レーン及びタクシー待機レーンの利用台数は概ね把握している。一般車両の停車時間の長短や、待機するタクシーが集中する時間帯など偏りがあることも把握できた。そのため、全体的な動向をしっかりと見ながら検討していく必要があると感じている。警察やタクシー協会、送迎バスなど関係各所との調整も丁寧に進めていく必要があるので時間要すると思うが、現場を所管する土木事務所と共に、より使いやすくなるよう検討していきたい。

中島議員：交通量調査など、課題箇所解決のために現状把握の調査費は非常に重要と考えており、私も現場で使える調査費を増やすよう常任委員会等で働きかけたい。戸塚区には東戸塚以外にも調査が必要な箇所がある。調査しやすい環境づくりに向けて来年度の予算化も検討すべきと思うが、区長はどうか。

近藤区長：前回の区民意識調査でも交通課題について関心があるという結果を得ている。区として出来ることは限られるが、単に関係部署へ要望するだけではなく、調査をしたうえでデータを持って繋げていくことが重要と考えている。来年度予算編成でも対応できるよう進めていきたい。

中島議員：連合町内会の連絡会等も含めて以前から伝えているが、高齢化による地域へのベンチ設置のニーズが高まっている。公設ベンチ設置については法的な難しさがある中、地域で2か所設置し、実際に高齢者の方が座っている。しかし、その維持管理をどのようにしていくかが大きな課題である。可能な限り地域の方に行ってもらう、民地を活用し維持管理も含めて設置を進めるなど、様々な方法が考えられるが、区としての見解はどうか。

山内区政推進課長：踊場地区の取組である「坂道プロジェクト」では、横浜市の補助金を活用して民地に設置したベンチを地域の方が維持管理しており、先進的な好事例と認識している。また、公道での設置に関して、歩道通行幅の確保など条件はあるが、道路占用により設置することは可能である。ただし、区が設置を行う場合は日常管理や修繕なども見込む必要があり、予算的にも人員的にも難しい。そのため、踊場地区の事例のように、民地に設置されたベンチを地域の方で日常管理から修繕まで担うことを仕組み化できれば、ある程度まとまった地域ニーズに対しては、新規設置の手助けを検討できるのではないかと考える。

中島議員：柏尾川桜並木保全・再生事業について、8月22日時点でのふるさと納税実績が記載されているが、達成率と今後の展開を教えてほしい。

山内区政推進課長：GCF型ふるさと納税については、目標額700万円に

対して 1,100 万円を超える寄付があり、達成率は 158.4% と非常に多くの方から御支援をいただいた。企業版ふるさと納税に関しては、目標額 800 万円に対して 470 万円で達成率は 58.8% となっている。企業版は年間を通して受け付けているため、今後も伸びる余地があり、実際に支援を検討してくださっている企業もいる。もう少し積み上げができるべきと思っている。GCF 型と企業版を合わせた全体の目標額は 1,500 万円だが、寄付額の合計は 1,578 万 9 千円で達成率 105.2% と高いハードルを達成できた。今後は土木事務所で工事発注をし、抜根と植樹を行っていく。

中島議員：このような取組での目標達成は、市内でも戸塚区が最初の例だと思う。次に繋いでいくためにも引き続き取組を進めてほしい。

坂本議員：吉田大橋交差点の交通課題については、小規模のハード対策ということで、引き続きしっかりと進めていただきたい。

次に、駒立橋の横断歩道は夜間暗く、危険な場面も見られる。照明の照度を上げるなど対応しているが、それでも人影が見づらく危険性が高いと感じるため、いっそう踏み込んだ対策をしてほしい。

森土木事務所副所長：現状を把握できていなかったので、夜間に現地確認をして必要な対策を講じていきたい。

坂本議員：お子様連れの方など、横断する方が非常に多いのでしっかりと安全対策を講じてほしい。

次に、不動坂交差点の陸橋に高さ表示は設置しないのか。

森土木事務所副所長：陸橋の高さ表示義務は 4.7 m 未満の場合である。不動坂交差点の陸橋の高さは 4.7 m 以上あり、設置の予定はない。

坂本議員：区役所と吉田大橋の間にアンダーパスについて、中間地点あたりが電波不感地帯となっている。技術的に難しいと聞いているが、利用者からの問い合わせもあるため、対策を検討してほしい。

森土木事務所副所長：当該箇所に限らず長いトンネルでは電波不感地帯が発生しやすいが、中継器を入れるとタイムラグが生じるために難しい。一

方、災害時なども考慮するとクリアすべき課題と考える。市内の同じようなアンダーパスやトンネルでの電波対策を確認し、解決策があれば講じていきたい。

坂本議員：電波不感地帯の課題を解消することは災害時の対策としても必要であるため、ぜひお願ひしたい。

次に、戸塚駅東口のタクシー乗り場が移転したが、その後の利用状況はどうか。

山内区政推進課長：東口のタクシー乗り場は3月31日に移転した。移転後はセンサーで利用台数をカウントできるようになり、そのデータをタクシーセンターから提供していただいている。タクシー乗り場は0時から6時までは一般車の利用も可能なため、この時間を除いた6時から24時までの18時間で見ると、6、7、8月の3か月の平均で1時間あたり17から18台の利用があり、これまでカウントする手段がなかったため体感ではあるが、タクシー利用が増えたと受け止めている。一方で、時間帯によってはタクシーがいないために待ったという利用者からの声もあるため、状況を確認しタクシーセンターに伝えている。

坂本議員：以前と比べて乗りやすさは格段に向上したが、さらなる対応をお願いしたい。

東口の交通広場について、屋根がないところが多いため、バスを待つ間、傘が必要となる。乗り場の環境改善としてもう一歩踏み込んで検討してもらいたい。

最後に、防犯について、特殊詐欺等の被害状況が悪化している話を聞くが、現状について教えてほしい。

竹内地域振興課長：神奈川県警のホームページに記載されているが、令和7年7月末時点の特殊詐欺状況は、横浜市全体で577件、被害額は約32億4,500万円となっている。そのうち戸塚区では40件、被害額は約2億1,900万円で、昨年と比べて被害額が大きく増加している。

坂本議員：和菓子店や薬局などと連携し啓発しているが、まだまだ高齢者の方に届いていない。区民の財産を守るために、どうやったら高齢者

の方々にも届くのか、目に留まりやすい工夫を議論し、警察と連携しながら検討してほしい。

中島議員：今年度の防犯カメラ設置状況と地域の防犯力向上緊急補助金の申請状況を教えてほしい。

竹内地域振興課長：防犯カメラは今年度戸塚区で8団体、計9台の申し込みがあり、市民局に要望している。

緊急補助金の申請状況は、申込期限が11月末に延長されたこともあり、現在、市民局が集計中である。また、8月末に連合町内会長へ送付した書類の中で、申請期限の延長や補助金の具体的な活用事例を紹介している。それにより問合せや活用したいという声も増えているため、期限まで状況を見ていきたい。

中島議員：地域の防犯力強化を図るために4千万円近い予算があるので、どうにか期限までに使い切れるよう進めてほしい。また、この件は警察とはどのように連携しているのか。

竹内地域振興課長：市の防犯に対する取組は戸塚警察署生活安全課にも共有している。地域の定例会などで警察官が注意喚起や特殊詐欺の防ぎ方について直接指導しているとも聞いているので、今後も連携していきたい。

中島議員：どのエリアで犯罪が多いかなど、警察が持っている情報やアドバイスをもらいながら、戸塚の防犯力向上のために連携して取り組んでいただきたい。

大和田議員：昨今の異常気象を踏まえると、避難所環境改善の取組は大きな前進と考えている。そのうえで地域防災拠点の空調設備の設置が課題だが、予算的に難しいとも聞いている。現在の設置状況と今後の計画について教えてほしい。

近藤区長：戸塚区には地域防災拠点が35拠点あるが、そのうち空調設備が設置されている拠点は7箇所で、今年度中に新たに3箇所の設置が計画されている。「新たな地震防災戦略」は全拠点への設置を目標とし、少

しでも早く設置が完了するよう局にも要望していく。

大和田議員：全拠点への設置が完了するのは何年度か？

石和田総務課長：令和11年度までに設置すると聞いている。

伏見議員：マンション防災の取組を進めていくうえで、立地や設備、居住者の年齢層など様々な状況の違いがあるが、特に高齢者の多いマンションでは防災訓練の参加率が低いという課題がある。居住者の年齢層が上昇するに伴って、これまでの訓練内容が各マンションの状況と合わなくなっている現状がある中で、どのように取組を進めていくのか。

石和田総務課長：建物や居住者の状況など様々なケースがあるため、全てを網羅するのは難しいと思っているが、他都市の好事例の紹介やマンション防災アドバイザー派遣などで対応していきたい。

伏見議員：例えば、マンション防災活動支援ガイドブックにトピックとして「高齢者が多いマンション向けの問い合わせ」を吹き出しのような形で記載するなど、より分かり易い内容を検討していただきたい。

次に、トップスポーツチーム応援事業について、戸塚区には多くのスポーツチームがあるが、女子ラグビーなど近隣で試合の出来ないチームの応援をどのようにするか考えている。例えば、W杯のパブリックビューイングを公会堂で開催するが、W杯に限らず、各競技の試合を区役所3階区民広間でパブリックビューイングを実施し、試合が遠方で行われる競技でも身近に感じてもらい、応援できるような取組を検討できないか。

竹内地域振興課長：試合の情報は、区公式XなどのSNSを活用し発信している。今後も、より区民の方に女子スポーツを身近に感じてもらえるよう様々な手法を検討していきたい。

伏見議員：パブリックビューイングの会場ではイベントを行うのか。

竹内地域振興課長：女子ラグビーチームのYOKOHAMA TKMの選

| | |
|-----|---|
| | <p>手にお越しいただき、1時間ほどのトークイベントを企画している。</p> <p>伏見議員：このような機会に選手やOBの方にお話ししていただければ試合観戦もより分かり易くなると思うので、引き続き取組を進めてほしい。</p> <p>次に、区役所のペーパーレス化の取組はどれくらい進んでいるのか。</p> <p>石和田総務課長：デジタル化が進んでいる中で、極力紙の使用を減らすように進めており、実績としても着実に減少している。</p> <p>伏見議員：区づくり推進市会議員会議の資料についても、事前に議員に紙媒体の要否を確認してほしい。</p> <p>また、先日、舞岡地区センターの空調が故障したが、各地区センターの空調設備の状況を教えてほしい。</p> <p>竹内地域振興課長：7月に舞岡地区センターの加圧給水ポンプに不具合が発生し、空調が使用不能となり、一時的に施設を閉館した。他の施設では閉館には至っていないが、一部の部屋で空調に不具合が生じていると聞いている。施設自体の老朽化や近年の酷暑も影響していると思うが、不具合の報告を受けたらすぐに対応するようにしている。</p> <p>坂本議員：ウナシーの着ぐるみの暑さ対策はどうしているのか。</p> <p>竹内地域振興課長：空調ベストなどを活用し、少しでも涼しく使用できるように工夫して熱中症対策をしている。</p> <p>坂本議員：引き続き熱中症対策をしながら活動していただきたい。</p> |
| 備 考 | |